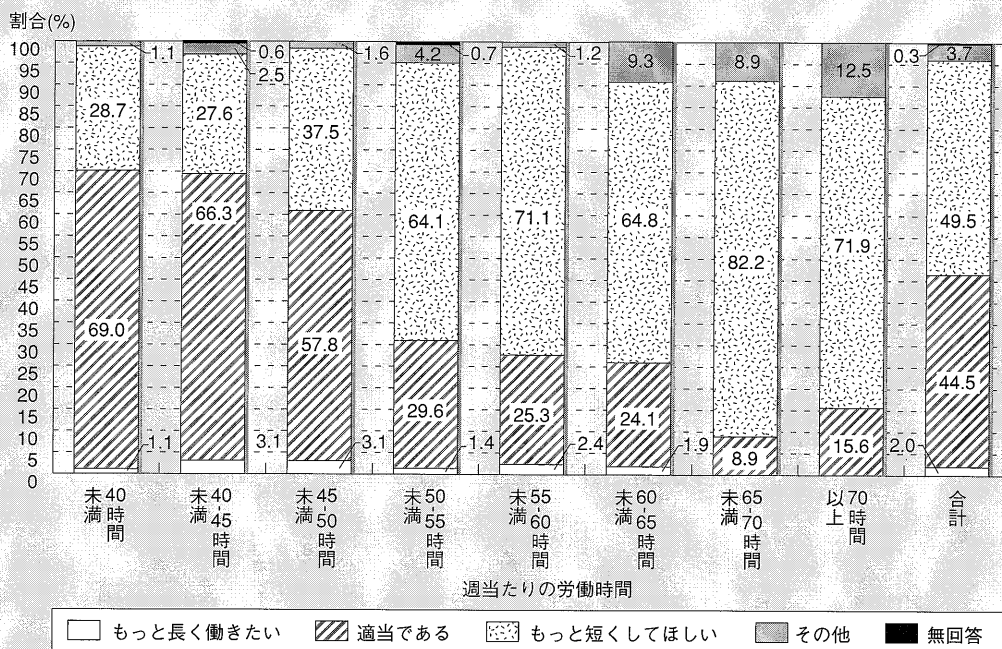


図表3-1-11-1 週当たり時間階級別労働時間の長さについての意識（男性）



資料：（財）連合総合生活開発研究所「働き方の多様化と労働時間の実態に関する調査報告書」（2001年）

（労働力人口減少社会を迎え、ますます必要となる働き方の見直し）

- 今後、少子高齢化が進む中で、労働力人口減少社会が到来する。高齢層、若年層、壮年層、それぞれが家庭生活等とのバランスを図りつつ働くことができ、また多様な働き方を望む層が能力発揮できるような雇用管理の仕組みを作っていく必要がある。

（自律した仕事の進め方などの意識改革が必要）

- 働く側の生活事情に応じた短時間勤務制の導入など柔軟な働き方を実践している企業事例をみると、限られた時間の中で極力効率的に仕事をこなし、自らの責任を最大限に果たすことが求められている。バランスのとれた働き方は決してすべてにおいて「やさしい」働き方というわけではなく、働く側も意識を変えていくことが求められる。

第2節 高齢者の活躍の場としての地域福祉活動

<全体的な状況>

- ボランティア団体・グループの数および参加総人数は順調に増加してきている（図表3-2-1）。

<地域福祉活動に従事する者の増加とその背景>

- ボランティア活動への参加状況をみると、定年退職者の参加する割合が多くなってきている。また、各世代に活動への参加の理由を尋ねると、若年層では楽しみや友達付き合いの一環として活動に参加しているが、年齢が高くなるにつれて「社会やお世話になったことに対する恩返しをしたかった」「困っている人を助けたいと思った」などの理由が増える傾向にある。さらに、「生きがいになるものがほしかった」という回答は、年齢が上がるごとに理由としてあげる率が高くなってきている（図表3-2-6）。